

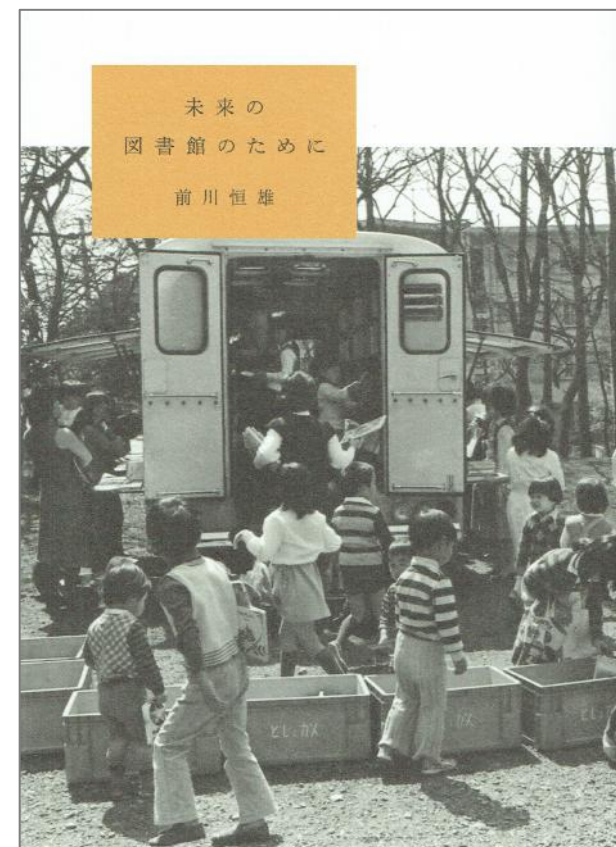
2月5日発売

『未来の図書館のために』 前川恒雄著

日本の図書館を改革した人が、最後に伝えたかったこと。

1960年代に東京の日野ではじまった日本の図書館改革。それは1台の移動図書館が市民の求める本を供給したことがきっかけです。市民を教育するための図書館ではなく、市民が欲する本を購入し、取り寄せ、本をとおして市民と対話し、市民とともに成長する「身近な」図書館。日野の図書館長であった前川恒雄は図書館の本が充実し、利用する市民が増えれば、そのことがよりよい社会につながっていくと信じました。本書は2020年に亡くなった前川恒雄の遺稿集です。

「日野市立図書館が目指したもの」という論考にはじまり、『移動図書館ひまわり号』以外の仕事の私的で生々しい記録と、晩年まで滋賀県の会報で連載していた現在の図書館にたいする思いの3つによって構成されています。図書館が大きく変容していこうとする今、最後まで図書館の可能性と未来について考えた、著者の言葉に耳を傾けたいです。装丁写真は『ぼくは、図書館がすき』の漆原宏さん。



価格：1800+税 / 176頁

四六版変形 / ハードカバー ISBN 978-4-904816-35-6 C0000

取次：JRC（すべての取次からの搬入が可能です）

ご注文は JRCへ FAX：03-3294-2177 電話：03-5283-2230

発行 夏葉社 TEL/FAX 0422-20-0480 東京都武蔵野市吉祥寺北町1-5-10-106

発行 夏葉社

未来の図書館のために

前川恒雄 著

本体1800円+税

ご担当者様

冊

取り扱い書店名